



## ドイツ学術情報 (2013年10月~12月)

< 目次 >

### 1 ピックアップニュース

…p 1

- ① ホライズン 2020: ヨーロッパの新たな研究・イノベーションプログラム
- ② ドイツ人学生の国際モビリティ向上を目指すプログラム“PROMOS”による支援数が1万人を超える
- ③ ドイツ人留学生数が5%増加

### 2 その他のニュース

…p 2

- ① 外国で取得した単位の認定は概ね問題なし
- ② 国外で取得した職業資格の大半が認定される
- ③ 枠外資金の不足は申請過多を招く

### 1 ピックアップニュース

#### ① ホライズン 2020: ヨーロッパの新たな研究・イノベーションプログラム

欧州議会は11月21日、研究及びイノベーション推進のための新たなフレームワークプログラム「ホライズン 2020」について合意した。2014年1月1日に公式に開始される。これにより研究及びイノベーションに対するEUの投資額は約700億ユーロに達し、27パーセントの増加が見込まれる。この新しいプログラムの開始により、2020年までにEUにおける持続的な成長と継続的な雇用の創出と、それに伴う市場競争力の高まりが期待される。

<http://www.horizont2020.de/>

[http://ec.europa.eu/research/horizon2020/index\\_en.cfm](http://ec.europa.eu/research/horizon2020/index_en.cfm)

<http://www.bmbf.de/press/3530.php>

#### ② ドイツ人学生の国際モビリティ向上を目指すプログラム“PROMOS”による支援数が1万人を超える

ドイツ人学生のモビリティ向上プログラム“PROMOS”により外国へ行くことのできた学生が、2012年初めて1万人を超えた。PROMOSはドイツ連邦教育研究省(BMBF)が資金を提供しているプログラムで、高等教育機関は外国での留学・インターンシップ・語学留学に最大6ヶ月間奨学金を支給することができる。



1万310名の奨学生のうち、約8割は学部生であった。また、専門分野では工学が最も多く、次に経済学が続いた。渡航先は北米、アジア太平洋、西欧地域が依然として多かった。

外国で取得した単位の認定についてドイツ学術交流会(DAAD)が行った調査結果によると、回答した学生の69%が、外国で取得した学位をドイツの所属大学で認定されていた。学位が認定された学生の受入機関は、欧州単位互換制度(ECTS, European Credit Transfer System)を適用していた。

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2013/24982.de.html>

### ③ ドイツ人留学生数が5%増加

連邦統計庁により毎年実施されているドイツ人学生の国際モビリティに関する調査によると、2011年に外国に留学したドイツ人学生数は一層増加し、約134,000人となった。最も人数が多い留学先は、オーストリア、オランダ、イギリス、スイスである。

外国で学位を取得する学生もいれば、短期留学やインターンシップのため短期間外国へ行く学生も多くいる。

ドイツ人留学生数は、これまで渡航数が比較的少なかった、ポルトガル(+83.8%)やルーマニア(+32.2%)、トルコ(+19.5%)、中国(+11.9%)などの国でも増加傾向にあることが明らかになった。一方、アイルランド(-22.3%)やオーストラリア(-10.2%)、ニュージーランド(-9.2%)、米国(-1.2%)といった、英語が公用語の国では減少した。

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2013/25227.de.html>

## 2 その他のニュース

### ① 外国で取得した単位の認定は概ね問題なし

ドイツ学術交流会(DAAD)は、留学経験者を対象に2年に1度「単位認定一問題があるかないか?」というアンケートを実施している。所属大学に単位を全て認定された学生は、2007年は41%だったのに対し、最新の調査では69%に増加した。

外国で取得した単位が所属大学で認定されるどうかが、留学へのモチベーションを高める上で決定的な役割を果たしている、とDAADのヴィンターマンテル会長は指摘する。エラスムス計画の後継である、EUの教育プログラム「エラスムス+」(エラスムス・プラス)においても、外国で取得した単位の認定が強く求められている。

単位認定の好事例を公開し大学の単位認定の取組みを支援するため、DAADは2010年から「単位認定の好事例」賞を授与している。

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2013/25205.de.html>



## ② 国外で取得した職業資格の大半が認定される

10月15日連邦統計庁が公開した連邦の外国職業資格認定法に関する統計によると、2012年4月から12月までの間にドイツ全国で提出された約11,000件の資格認定を求める申請のうち、2012年12月31日までに約8,000件について、すでに決定がなされていることである。決定済みの申請のうち82%において、国外で取得した職業資格がドイツで正式に認定された。

申請者のうち、約80%は医師、看護師等の医療分野の従事者である。また、約20%はビジネスマン、機械工、電気技術者等の訓練を要する業務に従事している。

2012年4月1日時点の外国職業資格認定法では、全国的に資格が規定されている職種のみを対象とし、教員やエンジニア等の職種は州ごとの法律によって規定されている。ヴァンカ連邦教育研究大臣は、職業資格認定のための法律を持たない8つの州において法整備が進むこと、および、すべての職種に関する認定手続きが進むことを期待している。

<http://www.bmbf.de/press/3520.php>

## ③ 枠外資金の不足は申請過多を招く

近年、大学は教育研究の場であると同時に、資金獲得の場ともなっている。ドイツ学術振興協会(DFG)によれば、このような変化を背景として、大学における基盤的資金が不足することにより枠外資金調達へのプレッシャーが強くなり、資金獲得をめぐる競争が厳しくなっているという。

最も顕著に表れているのは、支援申請数と申請額が予算額を大幅に上回っていることである。そのため採択率が下がり、学術的に非常に優秀な申請までが不採択となっている。DFGはこのような変化について、審議会や学術関係者、政治家、公的機関とも継続的に議論を行い、対応を模索している。

最近の研究資金の現状とそのDFGへの影響、および将来の学術制度とDFGの役割について、DFGがインターネット上に掲載した文書に示されている。

[http://www.dfg.de/foerderung/grundlagen\\_rahmenbedingungen/drittmitteldruck](http://www.dfg.de/foerderung/grundlagen_rahmenbedingungen/drittmitteldruck)

[http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2013/pressemitteilung\\_nr\\_45/index.html](http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2013/pressemitteilung_nr_45/index.html)



ぼんぼん時計第42号  
日本学術振興会ボン研究連絡センター  
JSPS Bonn Office  
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)  
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)  
Phone +49(0)228-375050 Fax +49(0)228-957777  
[www.jspb-bonn.de](http://www.jspb-bonn.de)